

## 第2学年3組 道徳学習指導案

平成18年11月17日（金）第4校時

1 主題名 誠実に心をこめて 1－（4）明朗・誠実

2 資料名 ごめんなさい（日本標準）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

「ごめんなさい。」は「ありがとう。」とともに気持ちよく生活するために大切な言葉である。しかし、残念ながら素直に言えない子が増えてきている。その原因として考えられるのは、人との交流不足であろう。その結果、自己中心的となり、相手の立場を思いやる気持ちが育ちにくいのではないか。

相手を思いやる気持ちを育てるためのひとつの実践として、「ごめんなさい。」を言うロールプレイを指導し、日常で実践できるようにしていきたい。

（2）児童について

元気のよい、活発な児童が多い。その一方、友だちにぶつかっても気にしないで行ってしまいう子もよく見かける。しかしそんな子でも友だちにぶつかったときは、「知らない顔で行ってしまった」と訴えてくることがよくある。ぶつかったときのやりとりを見ていても、自分はわざでなかったことを強調するばかりで、当たったことに「ごめんなさい」を言うことができない児童が何人かいる。そんなときは「まずは、ごめんなさいって言おう。つづきはそれから」と説得することが多い。しかし、なかなか自然に「ごめんなさい。」が言えるようにはなかなかならない。この資料で「ごめんなさい。」を言うロールプレイをし、これからも根気強く指導する必要がある。

（3）資料について

ここでは「ごめんなさい。」を言う場面と言わない場面を設定し、それぞれの気持ちを体験させる。「ごめんなさい。」は言っても、言われてもすっきりしたよい気持ちになり、言わなくても、言われなくてもいやな気持ちになることを実感するだろう。そのことを分からせるために、このロールプレイを集中してやらせることが大切である。

（4）指導について

二人組のロールプレイで「ごめんなさい。」を言われる、言われたい、言う、言わない、の4つの立場を体験させる。それぞれの状況の気持ちも出し合い、「ごめんなさい。」と心をこめて言うことの大切さに気づかせたい。

4 本時のねらい

過ちを素直に認めることにより、ともに気持ちよく生活しようとする心情を育てる。

5 準備物

挿絵の拡大コピー ワークシート

6 本時の展開

過程	主な発問と予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）
気づく	○三つの場面を一つずつ黒板に提示し、それぞれの場面でどうするかを考える。	・「ごめんねと言う」や、「あやまる。」というお手本通りの答が帰ってくると思われる。そこで、普段も互いにそうできているか、尋ねる。
考える ・深める	○資料「ごめんなさい」を読んでロールプレイの大体を理解する。 ○代表の二人にロールプレイをしてもらい、「ごめんなさい。」を言われたときと、言われなかったときの気持ちを聞く。 ○二人組をつくり、ロールプレイする。 (1)「ごめんなさい。」と言われたときと、言われなかったときの気持ちはどうか。  (2)「ごめんなさい。」と言ったときと、言われなかったときの気持ちはどうか。	・代表のロールプレイを通してやりかたを理解させる。  ・言われなかったときの気持ちは考えさせる。「ごめんなさい。」と言わない理由は黙ったまま、「わざとじゃないもん。」「わたしのせいじゃないもん。」と思っていることが考えられる。  ・「ごめんなさい。」は心をこめて言うように話してから始める。
見つめる	○今日の学習の感想を書く。	・ロールプレイで感じたことと、これまでの自分の経験を振り返らせ、書かせることで確認させ、深めさせる。 ☆「ごめんなさい」と心をこめて言うことの大切さに気づくことができたか。 (発表・ワークシート)
高める	○教師の話聞く。	・児童の作文を取り上げる。また、教師の経験を話す。「ごめんなさい。」を言うことにより、みんなが気持ちよく生活できることを確認したい。